

## 石川島記念病院 北住 由美子(病棟看護師)

**功 績** 当院の専門領域である循環器内科治療の心臓カテーテル術の看護介助の獲得に、臆することなく果敢にチャレンジし、短期間で技術・看護をマスターしました。また、他の看護スタッフの育成にも力を注ぎ、365日24時間、ほぼ病棟スタッフで心カテ対応できる院内体制の構築に貢献しました。

**推 薦 者** 田村 礼子(看護部長兼病棟師長)

**推 薦 理 由** 365日24時間、心臓カテーテル治療ができる体制を再構築し、医師・看護師・ME・放射線科の安定したチームワークで治療に専念できる環境を再構築した功績は大。高度心臓病専門病院という当院の専門領域の更なる躍進を目指す医師チームの間でも、この功績は高く評価されて、信頼を得ており、その実績を以て、北住看護師を理事長賞に推薦させて頂きたいと思います。

### 内 容

---

北住は、昨年8月に、当院に入職しました。入職と入替えに、カテ室の専任看護師が退職することとなり、前職で循環器看護を経験していた事のある彼女に、後任の専任看護師として、白羽の矢が立ちました。前職での経験といっても短い期間でしたが、「他に経験者がいない以上、自分がやるしかない」と受け入れ、越野主任の指導の下、彼女の自己研鑽がスタートしました。

心臓について解剖学の基礎から勉強をやり直し、医師チームにカテ手技の勉強会もお願いしました。その熱意に、医師たちも喜んで指導に当たりました。学んだことをポジションマニュアルにまとめ、知識を整理しました。責任感が強く、几帳面にきちっ、きちっと仕事に取り組む性格から、看護に入るたびに着実に正確なスキルを積み上げ、10月には冠動脈造影検査(CAG)のみならず、冠動脈インターベンション(PCI)の手技もマスターして、独り立ちで担当できるようになっていました。同時に、目まぐるしく入れ替わった看護スタッフに対する育成計画にも、主任と協働して取り組みました。

心臓バイパスなどの手術は、少数のオペ室看護師で回すことができますが、件数の多いカテーテルは、できるだけ多くの担当を確保する必要があり、病棟看護師を輪番で担当に仕上げることにしました。それまで苦手意識を前面に出し、手技習得に消極的だったスタッフを、「まずカテの準備だけでも、やってみよう」と誘いだして、自分で手本を見せたり、肌理細かに手順を教えたりしました。

常に前向きなスタンスで指導することで、スタッフから苦手意識を取り払い、少しづつ対応できる看護師を増やして、今では8名の看護師が独力で入ることができるようになり、介助につけるスタッフも順次増加しています。

夜専看護師も、夜間救急搬送された緊急カテに備えて、オンコール当番が来る前に、準備体制を整えることができるようになりました。

これにより、夜間の緊急カテも含め、365日24時間のカテが、病棟のスタッフで対応できるまでになり、医師・看護師・ME・放射線科と安定したチームワークで治療に専念できる体制を構築し、当院のカテ実績の拡大に貢献しています。